



▲年末のしめ縄づくり



活力ある東部地域をめざして！ ～特定非営利活動法人きらら会～



▲人気の手作り遊具

Q 活動内容を詳しく教えてください。

A まずは施設の美観づくりです。来園される方が気持ちよく過ごしていただけるよう、気配りの行き届いた快適な景観づく

Q きらら会の紹介をお願いします。

A 私たちの会は、施設がオープンした2008年に特定非営利活動法人として活動を開始しました。会員は、現在38人（男性20人、女性18人）で頑張っています。

Q 今後の活動などを教えてください。

A 春には桜や芝桜、つつじ。5月には沢山の鯉のぼりが気持ちよさそうに泳いでいます。熊野東ふれあい館（旧熊野町東部地域健康センター）と深原地区公園の風景です。

今回は、この施設の指定管理者であるきらら会（荻野次夫会長）の皆さんに活動や課題などについてお話を伺いました。

りを中心にしています。また、敷地内の里山にモミジの植樹や遊歩道を整備し、手作りの遊具を設置しています。コンセプトは「自分の責任で自由に遊ぶ里山づくり」です。体験してください。



▲フードフェスタではハロウィン大会に多くの参加者が

イベントも開催しています。4月はキッズフェスタ、8月は夕涼みの集い・花火大会、10月はフードフェスタなど地元ならではの趣向を凝らした賑わいづくりを展開しています。「東部は元気だね」と多くの方から声をいただき、大変うれしく感謝しています。

不耕作地を活用した野菜作りにも挑戦しています。丹波種黒豆などの新鮮野菜を広島市内のホテルや近隣店舗の地産地消コーナー等に出荷しています。消費者との交流を通じて、働く喜びとモノづくり、仲間づくりの楽しさを共有しています。

Q 課題や悩みごとなどありますか。

A 会員の平均年齢が74歳と高齢化が進んでいます。後継者づくりも課題です。若い人の参加を待っています。女性も大歓迎です。

Q 町への要望があれば、教えてください。

A 来園された若い家族の方から、「大型遊具を設置してほしい」という声を多くいただきます。設置されたら、喜んでいただけると思います。



▲特産品化をめざし丹波種黒豆の作付に励む



取材 中島数宜
光本一也